

## 部会長，副部会長ご挨拶

### 部会長就任にあたって

部会長 宮越 順二



このたび、前期に引き続き、第28期放射線安全取扱部会の部会長に就任いたしました。アイソトープ協会が公益法人化され、部会名も変わり、この数年は、部会にとって大きな変革の年となっております。新しい部会細則では、部会の目的は、アイソトープ・放射線に関する公共の安全・安心の確保に寄与することです。これらの安全取扱、管理について知識の普及と技術の向上を図ること、また、放射線障害防止に指導的役割を果たしている放射線取扱主任者の育成と地位向上に努めることです。引き続き、新たな気持ちで目的の遂行に努力する所存です。

昨年度から本格的な部会評価が行われております。活動項目としては、主なものとして以下の通り多岐にわたっております。本部運営委員会の放射線教育企画・実施、企画専門委員会の教育訓練講習会の改善検討や消防への放射線教育、広報専門委員会の主任者コーナー企画や主任者ニュースの掲載、法令専門委員会の放射線管理Q & A作成、全国各支部の教育訓練講習会、教育訓練講師派遣、放射線取扱主任者試験（第1種、第2種）解答例作成、見学会・研修会の実施、年次大会の開催などです。部会としては、これらの活動について、公益性、学術的意

義、公開性など、目標に十分達成しています。

既に、2011年3月11日の東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故以来、3年が過ぎました。汚染水問題など、今でもマスコミからは放射線に関する報道がない日はありません。この3年、放射線安全取扱部会としても、年次大会などで、積極的に福島第一原子力発電所に関する話題を取り上げてきました。部会員の多くは放射線管理に携わっており、福島県での放射線測定などで、多大な貢献をされてきました。福島県の問題は今後長期にわたって解決してゆかねばなりません。部会としては、前述の目的を果たすべく、今後も引き続き放射線の専門家として貢献できることを考えていきます。

福島第一原子力発電所事故以来、放射線に関する講演会が全国で数多く開催されてきました。しかしながら、放射線教育という観点からは、特に小学・中学・高等学校の放射線教育は、長い年月のブランクがあります。この3年間、我が国では放射線に関して極めて敏感になっています。このような背景から、放射線教育の不足と重要性を強く感じています。そこで、昨年、中学・高等学校の先生を対象とした、放射線教育のための資料を作成する目的で、部会にワーキンググループを立ち上げ、議論を重ねてきました。ようやく資料がまとまり、この3月末に第1回の教員研修会を東京都で開催いたしました。放射線の基礎、人体への影響、環境・食品の問題など、参加された多くの先生には大変好評でした。今後、各地の教育委員会等の要請がありましたら、部会の地域特性を生かして、全国レベルでの実施も考えていきたいと思っております。

未筆ながら、今期は、副部長として、中島覚氏（広島大学）と上糞義朋氏（理化学研究所）にそれぞれ企画、広報を担当いただき、新たな本部運営委員の方々とともに、部会の発展に寄与する所存です。皆様のご協力とご支援を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

（京都大学生存圏研究所）

## 副部長就任のご挨拶

副部長 中島 覚



第28期の副部長と企画専門委員会委員長を仰せつかりました。これまで中国・四国支部長として本部運営委員会に出席しておりましたので、少しは今後の方向性について承知しております。

上糞義朋副部長とともに宮越順二部長を支えて部会の活動を積極的に進めて参りたいと思います。

私自身かつて企画委員を務めたことがあります。その時の活動の1つとして、支部教育訓練のスタンダード作りがありました。それまでは各支部独自に教育訓練が行われていました。もちろん法令の下での教育訓練ですので、内容に大きな逸脱はなかったと思いますが、支部によって違いがありました。その時の活動により支部による違いが小さくなり、さらに受講後のアンケートの解析結果をフィードバックしてより充実した教育訓練となりました。どこの支部の

教育訓練でもその質が保証されるようになったことは企画委員会の大きな功績だといえます。

松田委員長をはじめとする前期企画専門委員会の努力により分科会内規が変わりました。これまで支部活動に比べますと分科会活動は必ずしも活発ではありませんでした。内規の変更により、分科会活動は単年度ごとの活動になり、予算申請もできるようになりました。その中で、重要度の高い時限テーマに関しては部会直轄のワーキングとして継続発展できます。これは部会員であれば誰でも申請できます。このような仕組みができましたので、今期はこれを実際に動かすのが企画専門委員会の最重要の活動と考えます。部会員一人一人の提案を積極的に応援したいと思います。是非積極的に申請をしていただき、活動をお願いいたします。

若い部会員の方が、主任者や管理担当者など面倒な仕事に就いたと思っているのではないかと危惧しています。責任ばかり重く、あまり評価されていないと感じているかもしれません。この仕事を単なる実務と考えているためではないでしょうか。実務の奥にある本質的なものに迫られる活動をできないものとひそかに考えています。本質にどれだけ迫ることができたかがそれぞれの組織での評価を上げると考えます。そのような活動は放射線施設のためだけでなく、福島支援をはじめとするより広い貢献につながると考えます。

以上のように考えておりますが、まだまだ不勉強です。皆様のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

（広島大学自然科学研究支援開発センター）

## 副部長就任のご挨拶

副部長 上 蓑 義朋



前期から引き続き、広報専門委員長を兼ねて副部長を務めさせていただきます。よろしくお願いたします。

放射線安全取扱部会細則には、部会の活動について、第2条に「部会は、アイソトープ・放射線に関する公共の安全・安心を確保するため、アイソトープ・放射線の安全取扱、管理について技術の向上と知識の普及・啓発を図る。また、アイソトープ・放射線に関する国民の理解と放射線を取り扱う専門家への信頼を深めるため、放射線取扱主任者をはじめ放射線障害の防止に関する専門知識を有する者の育成と地位向上に努めるため、次の活動を行う。(以下略)」と書かれてい

ます。毎年1回、各支部のご努力によって開催されている年次大会(放射線管理研修会)は、この目的に沿った大きな事業です。しかし大会の中には一般に公開されたセッションもありますが、自分たち専門家のための技術と知識の向上という面が強いのが現状と思います。一方、2011年の福島第一原子力発電所事故によって、一般の方への知識の普及、啓発(少し<sup>おも</sup>面映ゆい言葉ですが)の重要性が思い知らされました。そこで部会では、本部運営委員会のメンバーが中心となり、中学校、高等学校の先生の協力も得て、生徒への授業にも使ってもらえるような放射線教育スライド(パワーポイントファイル)を作成しました。今期は部会が開催する講習会だけでなく、部会員が個人的に引き受けられる教育の機会にも、作成されたスライドを最大限活用していただき、放射線に関する正しい理解を少しでも広げられればよいと思っています。

((独)理化学研究所仁科加速器研究センター)

日本アイソトープ協会 図書のお知らせ

## 5版 やさしい放射線とアイソトープ

定価 1,400 円+税 会員割引価格 1,200 円+税

放射線について勉強したい一般の人を対象とした28年前からのロングセラー入門書。この1冊で放射線の基礎、利用、人体への影響、安全管理まで幅広く理解できます。“講義で使える資料集(CD-ROM)”付きで、放射線教育を行う立場の先生方にも最適な1冊。

<A5判・135頁 2014年1月発行>

ご購入は JRIA BOOK SHOP にて → <http://www.bookpark.ne.jp/jria>